

# 施策評価シート（平成28年度実績評価）

## ◎ 施策の基本情報

総合計画 中期プラン	政策No.	3-5	政策名	芸術文化の振興	政策の 目指す姿	地域の歴史や文化、先人に誇りを持ち、芸術文化に親しんでいます	施策 主管課	生涯学習課	施策主管 課長名	中村光一
	施策No.	2	施策名	先人の顕彰	施策の 目指す姿	郷土の先人の功績を理解しています	関係課名	賢治まちづくり課		
	現状と課題	<p>・宮沢賢治、高村光太郎、萬鉄五郎、新渡戸氏など全国的に有名な先人のほか、市民に知られていない花巻ゆかりの先人が数多くいます。</p> <p>・先人をテーマに取り上げた市民講座を開催しているほか、地元学・ふるさと学等として自主的に郷土の歴史や先人を学ぶ機会を設けている例もありますが、功績の調査や顕彰活動、新たな先人の掘り起しが十分できていない状況にあります。</p> <p>・花巻を代表する先人宮沢賢治は、世界各地で多くの方に評価されており、この先人に焦点を当てた取り組みが各地で行われています。</p>								

## 1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取組実績

<p>(1)郷土の先人に対する理解の促進</p> <p>○先人顕彰施設の展示内容や企画展の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各館企画展事業</li> </ul> <p>○市民講座、セミナー等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セミナーの開催</li> </ul> <p>○先人顕彰施設的环境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高村山荘周辺遊歩道整備</li> </ul> <p>(2)賢治さんの香りあふれるまちづくりの推進</p> <p>○賢治関連施設的环境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宮沢賢治イーハトーブ館整備</li> </ul> <p>○賢治さんを感じることができる場の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アートストリート事業</li> </ul> <p>○賢治関連催事の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宮沢賢治生誕120年記念事業（イーハトーブフェスティバル、童話村の森ライトアップ等）</li> <li>・賢治風のステージ、全国高校生童話大賞、賢治関連セミナー</li> </ul> <p>○賢治関連情報発信の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・賢治カレンダー発行</li> </ul>
---

## 2 成果指標

成果指標名	成果指標設定の考え方 (なぜ、この指標で成果を測ることにしたのか)	成果指標の測定企画 (どのように実績を把握するのか)	単位	数値 区分	H23	H24	H25 (基準年度)	H26	H27	H28
					目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
この1年間に宮沢賢治記念館等の市内の先人顕彰施設を訪れたり、郷土の先人に関するイベントに参加した市民の割合（F-7）	郷土の先人の功績について理解するため、市民が先人顕彰施設を訪れたり、先人に関するイベントに参加しているか、その状況を示す指標	出典：まちづくり市民アンケート【新規】 問：あなたは、昨年1年間に市内の先人顕彰施設（宮沢賢治記念館、花巻新渡戸記念館、萬鉄五郎記念美術館、宮沢賢治イーハトーブ館、宮沢賢治童話村、高村光太郎記念館等）を訪れたり、郷土の先人に関するイベントに参加したことがありますか？ (1)ある (2)ない (1)と答えた市民の割合	%	目標値				32.0	34.0	36.0
				実績値	—	31.4	29.9	32.6	30.0	29.6
日常生活の中で宮沢賢治の作品や考え方に触れる場があると思う市民の割合（F-8）	賢治さんの香りあふれるまちづくりは、「賢治を学ぶ場づくり」、「イベント開催による交流人口の拡大」、「賢治の香りあふれるまちの整備」、「情報発信・PRツールとしての商品開発」の4分野の事業で構成しており、これら全ての分野の事業成果が市民に享受されているかを示す指標として設定	出典：まちづくり市民アンケート 問：市では、「賢治さんの香りあふれるまちづくり」を推進することとしていますが、あなたは、日常生活の中で宮沢賢治の作品や考え方に触れる場があると思いますか？ 次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。 (1)十分あると思う (2)あると思う (3)あまりないと思う (4)ないと思う (5)わからない 成果指標は、(1)及び(2)と答えた市民の割合	%	目標値				62.0	64.0	65.0
				実績値	47.2	43.0	59.6	58.1	63.0	62.2

## 3 成果指標の達成状況

達成度	達成状況に関する背景・要因
C	<p>■成果指標「この1年間に宮沢賢治記念館等の市内の先人顕彰施設を訪れたり、郷土の先人に関するイベントに参加した市民の割合」・・・【達成度c】 実績値は横ばいであるが、目標値と乖離してきている。、先人顕彰担当課及び各館において工夫したイベントや企画展を開催し、期間中はある程度参加や入館者があるので、市民の先人への興味が薄れ参加割合が少ないと考えられる。</p> <p>■成果指標「日常生活の中で宮沢賢治の作品や考え方に触れる場があると思う市民の割合」・・・【達成度b】 H28年度は宮沢賢治生誕120年記念事業を展開したため、実績の向上が期待されたが、結果は前年比横ばいであった。様々なメニューを用意し、広報も積極的に行った結果、市外、県外からは多くの集客があったが、市民全体に「宮沢賢治に触れる場がある」と思ってもらうほど浸透させることはできなかった。</p>

#### 4 施策を構成する事務事業一覧

番号	事務事業名	担当課	施策への貢献度	
	事業内容(実績)		直結度	成果
1-1	賢治のまちづくり推進事業	賢治まちづくり課	A	B
	賢治風のステージ等賢治関連イベントの開催(開催回数:4回)、賢治カレンダーの発行(発行回数2回)、宮沢賢治賞・イーハトーブ賞の贈呈ほか			
1-2	賢治のまちづくり推進事業	生涯学習課	A	B
	賢治セミナーの開催(開催回数:6回)			
1-3	賢治のまちづくり推進事業	宮沢賢治記念館	A	B
	賢治の世界セミナー・ワークショップの開催(開催回数:30回)、特別展の開催(開催回数:3回)			
2	宮沢賢治生誕120年記念事業	賢治まちづくり課	A	A
	宮沢賢治生誕120年記念事業の実施(実行委員会)イーハトーブフェスティバル(開催日数:3日間)、童話村森のライトアップ(開催日数:延40日間)			
3	宮沢賢治普及・啓発事業	イーハトーブ館	A	B
	宮沢賢治学会イーハトーブセンターへの支援、企画展の開催			
4	宮沢賢治イーハトーブ館整備事業	賢治まちづくり課	A	C
	施設設備の補修・更新			
5	先人顕彰推進事業	生涯学習課	A	C
	4館共同企画展の開催、総合支所において先人顕彰ギャラリー巡回展の開催			
6	花巻新渡戸記念館企画展示事業	花巻新渡戸記念館	A	C
	特別展や教育普及事業を開催(事業開催数10回)			
7	高村光太郎記念館整備事業	生涯学習課	A	B
	高村光太郎記念館周辺整備(智恵子展望台改修、遊歩道ルート改修等)			
8	高村光太郎記念館企画展示事業	生涯学習課	A	B
	企画展の開催(高村智恵子紙絵展)			

#### 5 施策を構成する事務事業の検証

<p>(①市民ニーズや市の関与の必要性が低下した事業、②投入コストのわりに成果が低い事業、③施策への貢献度の低い事業はないか)</p> <p>・賢治のまちづくり推進事業のうち、「賢治風のステージ」は、平成24年度より一般の方に賢治作品等の発表と交流の機会を提供してきたが、出演希望者の固定化、観客数の減少等により事業効果が低下したことからH28をもって廃止とした。</p> <p>(施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか)</p> <p>・宮沢賢治の作品世界を体験できるよう宮沢賢治生誕120年記念事業として実施した「童話村の森ライトアップ」は、好評であったことから、賢治のまちづくり推進事業の中で継続開催することとした。</p> <p>・市内の子ども達が先人に関わる機会を高める必要がある。</p> <p>(新たに取り組むべき事業はないか)</p> <p>・先人の顕彰や掘り起こしとともに、それらを系統立てて紹介する方策を検討する。</p> <p>・市内の先人施設や図書館の資料の連携を検討する。</p>
--

#### 6 施策の総合的な評価

<p>(課題)</p> <p>・宮沢賢治やその作品に触れてもらうきっかけとするための施設である宮沢賢治童話村は、その環境やロケーションがイベント参加者やイベント業者にも好評であることから、現在の市主催イベントのほか民間イベント開催等に広く活用し、集客力を高めるための検討が必要である。</p> <p>・地域の先人を紹介する機会を設ける必要がある。</p> <p>(今後の方向性)</p> <p>・童話村での市主催イベント(ライトアップ、フェス)を定着化させるとともに、民間のイベント利用に向けた施設整備の検討を行う。</p> <p>・企画展や広報活動等で先人を広く紹介していく。</p> <p>・地域の先人の遺品、史跡等を地域と協働で活用していく方法を検討する。</p>
---